



ごうちゃんねる (GO-CHANNEL)

2023/05/06

あっさり黙示録 #61

全地に響き渡るキリストの御名

黙示録 19 章

東住吉キリスト集会 高原 剛一郎 氏



お元気ですか。高原剛一郎です。今日はあっさり黙示録の第 61 回目です。

今、地上再臨のキリストに付けられている 3 つの名前を解説しています。

1 つ目の名前は「ご自分のほかはだれも知らない名」。2 つ目の名前は「神のことば」。今日は 3 つ目です。

黙示録 19 章

16 その衣と、もものところには、「王の王、主の主」という名が記されていた。

3 つ目の名は「王の王、主の主」ですが、それはもものところに記されている。なぜもものところなのでしょう。実は、腿（もも）は剣を腰に差した時、鞞（さや）が丁度当たる部分なんです。

話は少し変わりますが、道路は世界的に右側通行です。ところが、日本は左側通行なんです。なぜでしょう。

武士は左腰に刀を差します。そうすると、右側通行で歩いて来ると、すれ違い様に鞞がバチンと当たる可能性があるんですね。

刀は武士の魂です。向こうから来る人とこちらから行く人がすれ違う時、互いの刀の鞞が当たったら、そらトラブルが絶えないと思いますよ。

そこで、左側通行を徹底したんです。



ドイツの医者で物理学者でもあるエンゲルベルト・ケンプファー博士が、日本が開国するずっと前の 1690 年に、日本では左側通行が徹底されていたと報告を書いています。侍が腰に差した刀の鞞が、丁度左側の腿の辺りに来るということなんです。この慣習とイギリスの勧めもあって、道交法を決めたということです。

私がここで言いたのは、もものところというのは武器装着の部位だということです。

もものところには、「王の王、主の主」という名が記されていた。

キリストに武器は要りません。素手で来られました。

もものところに剣は装着されていませんでした。お名前そのものが、敵を圧倒する武器になっていたのです。そのお名前（タイトル）は「**王の王、主の主**」。

艱難時代は王ではないサタンを王とし、主ではない反キリストを主として生きている世界です。神を追放し、サタンと反キリストに従っていくという世界観で動いている世界に対して、偽者の王・偽者の主を蹴散らすために、本物の王であり主である方が来られるんですね。

反キリストを打ち負かした後、千年王国という至福の時代が始まります。これはメシア的王国とも言います。

「千年王国の**王の王**とはどなたですか。イエス・キリストです！」

「千年王国の**主の主**とはどなたですか。イエス・キリストです！」

このご自分の王権の主張宣言のために、もものところにその名を記して来られたんですね。

では、どのようにして反キリスト軍を駆逐するのでしょうか。

続きをお話しして行きますので、よろしければ、またお付き合いください。

チャンネル登録もお願いします。ではまた ごうちゃんねるでお会いしましょう。

皆さん、お元気でいらしてください。さよなら！

☆引用；日本聖書刊行会『聖書 新改訳 2017』いのちのことば社,2017